

R6年度の振り返り

武蔵野市自立支援協議会当事者部会
部会長 安東博

相変わらず、部会のメンバーがあまり増えずこれで良いのか、と思いながら進めている。年度始めに、部会員の白寿の祝を西部コミセンで行った。これはレクリエーションの実証実験も兼ねて行った。食事会の準備からはじまり、パソコンを使つての遠隔対戦にも挑戦してみた。食事会はカレーを作り、できる人が調理室で行い、他の者は、持参したPCを設定して自宅から参加するメンバーの準備をした。

白寿のお祝いも、ゲーム大会もうまく行えた。介助者や家族の方の協力で成功した。これがないと、出来ない、これを角度を変えてみれば、そこにちょっと手を貸してくれる誰かがいれば、生きやすい社会になると思う。

模擬選挙は、国政選挙があり、選挙に使われるものの展示とピア何でも相談室を開いた。

告知というか、広報があまり出来ていなかったこともあり、来る人はすくなかった。それでも最後のほうに、18歳の知的障害の方が立ち寄り、様子がわかってから期日前投票に行けたことが良かった。実際の期日前投票の期間だけでもあのような場があればもっと投票に行ける人が増えるのでは？と思った。

秋にレクリエーションで、BBQを中央公園で行った。このとき、介助者は参加人数にカウントしないということになったが、当事者と介助者が一目でわかるように、「ボランティア」と書いてある腕章を事務局で言われ嫌な気がした。以前はそういうことはなかったのに、残念に思う。

皆が気持ちよく、何事もなくごく普通に過ごせる社会にしたいと思う。